

感染予防で活動を自粛しており、
手渡してきず申し訳ありません。

志士の会 新聞 Vol.12
前橋市議会議員 つつみはじめ

誰がなつても同じではない! 実行力と結果。動きはじめます!

コロナにおける生活への影響
の理由からアパート等を失う恐れのある方からの相談により、給付金の支給を申請する方は、大幅に増加いたしました。昨年の令和元年度においては、年間の延べ支給件数が16件であります

まずは、コロナ対策
令和二年度 第4回定例会(12月4日)



市長へ新年度の予算要望書を提出

「議員は、誰がやっても同じでない」。それを証明するために必死に取り組んだ4年。世代や地域や職業によっても、課題は様々です。そういった一人一人と向き合ってきました。なにをしたいか、ではなく、市民のためになにをしてきて、何ができるのか。そんな中、長年の懸案である本町五差路は、住民アンケートをとって以来なんの動きもないことから、要望するとともに、中央小跡地活用や中心市街地再開発、馬場川や広瀬川周辺の再整備について中央地区の自治会長の方々とともに市と意見交換をしたのが先日、記事になりました。



12月14日・上毛新聞

堤だからできる地域課題
① 旧中央小学校の利活用
以前に地元の中央地区自治会連合会より、跡地活用について、要望書を提出しました。昨年の令和元年度においては、年間の延べ支給件数が16件であります

SNSの誹謗中傷対策
実際に感染者が発生すると、インターネットを中心に感染者や場所を特定しようとする動き、また排除するようになります。この財源は、国の交付金や財政調整基金などの活用を図つており、感染症の第3波の拡大が危惧される中で、さらなる対応が求められるものと思いますが、国の交付金など新たな財源が見込めない場合、難しくなってきています。

1億円と、大変大きなものとなつております。この財源は、国の交付金や財政調整基金などの活用を図つており、感染症の第3波の拡大が危惧される中で、さらなる対応が求められるものと思いますが、国の交付金など新たな財源が見込めない場合、難しくなってきています。

たが、令和2年度の4月から10月までの7か月間において、延べ支給件数は330件となつており、大幅な増加となり、支給を終結する方も見られ、一月あたりの支給件数も40件ほどに減つている状況が見られます。

追加の経済対策はあるのか

市民生活や地域経済に大きな影響が及ぼされる中で、市民や事業者を支援するため、経済対策や感染症予防対策など度重なる補正予算を編成してきました。その総額は、516億円ほどであり、このうち国の定額給付金等の事業を除く、市独自の取り組みで、約17億円と、大変大きなものとなつております。この財源は、国の交付金や財政調整基金などの活用を図つており、感染症の第3波の拡大が危惧される中で、さらなる対応が求められるものと思いますが、国の交付金など新たな財源が見込めない場合、難しくなってきています。



※今年度及び新年度取り組み予定。新年度は予算次第となります。



命を守る交通安全対策
堤だからできる地域課題
② 交通渋滞緩和のために右折信号機の設置
歩行者と自転車のために舗装と自転車通行帯の設置
交通渋滞緩和のために右折信号機の設置
高齢者も渡れるよう歩道橋の撤去
歩行者と自転車のための歩道橋の西側交差点(大手町)
歩行者も安心できるよう速度標識の設置
子供たちを守るためにゾーン30の設定
中川小前交差点(本町・三河町) 中川小周辺(朝日町・三河町)

五差路の自動車交通量としては、平成30年度 上武道路の全線開通前後にいて1日あたり約1600台減少していますが、1日あたり約45000台であります。また交通事故の状況ですが、国道50号本町一丁目から三丁目の地点において依然として多い状況となっています。また交通事故の状況ですが、国道50号本町一丁目から三丁目の地点における死傷事故率の比較として群馬県平均の約2倍と高い水準となっています。五差路に架かる歩道橋の設置時期は昭和46年に設置後、49年が経過しています。老朽化やバリアフリー化に伴い、歩道橋も全国的に撤去される動きがあります。本次交易点については、安全性の確保や中心市街地全体の回遊性の向上のため、歩道橋の撤去を含めた早期の改良が必要であると考えます。地元地域からも、アンケートを実施して以来、なんら動きがなく、その後どうなっています。どう意見を多くいただけます。

本町五差路の改良
建物解体工事が10月に完了し、新たな施設建設への期待はより高まっています。中川地区の自治会連合会より医療体制について、以前要望書の提出をしましたが、移転後の夜間急病診療所において、休日在宅当番医のセンター化方式となり、令和5年4月の共用開始を目指し、休日在宅当番医の委託先である前橋市医師会と協議を継続しています。

者向けの説明会や現地見学会を開催した上で、9事業者が参加し、年内を目安に皆様に公表したいと考えています。

② 旧日赤病院跡地の今後



※12月15日時点です。県民会館については市民の声に耳を傾け、県と市が連携して検討を進めていくよう要望書を提出!

一時預かり保育の拡充
命を守る交通安全対策
堤だからできる地域課題
③ おむつの持ち帰りについて
おむつの持ち帰りについて
働くお親御さんの育児負担の軽減、また衛生上の観点から、使用済の紙おむつの処分については、基本的に一律で持ち帰りをやめて、施設で処分するという方向性に統一できないのか。紙おむつの持ち帰りについては、すべての公立保育所と約7割の民間保育施設で家庭への持ち帰りを行っている現状です。財政負担を考えると簡単には言えません。行政サービスもどこまで行うかは、課題であります。現在、前橋駅北口で事業が進んでいる市街地再開発事業において、一次預かり事業を中心とした子育て支援施設の設置がされるとのことです。是非とも利用者目線の運用をお願い致します。

おむつの持ち帰りについて
働くお親御さんの育児負担の軽減、また衛生上の観点から、使用済の紙おむつの処分については、基本的に一律で持ち帰りをやめて、施設で処分するという方向性に統一できないのか。紙おむつの持ち帰りについては、すべての公立保育所と約7割の民間保育施設で家庭への持ち帰りを行っている現状です。財政負担を考えると簡単には言えません。行政サービスもどこまで行うかは、課題であります。現在、前橋駅北口で事業が進んでいる市街地再開発事業において、一次預かり事業を中心とした子育て支援施設の設置がされるとのことです。是非とも利用者目線の運用をお願い致します。

子育て世代の代表として

どうなる近隣の大型施設



第四弾 厳しい財政状況の中、支援期間も残りわずか！経済再開のための、新型コロナウイルス感染症に伴う 支援制度



個人向け

国 ひとり親世帯 特別給付金 ※再支給

ひとり親家庭は非正規雇用労働者の割合が高く、その生活実態が依然として厳しい状況にあることを踏まえ年末年始に向け給付金を再度実施する■支援内容：令和2年12月11日時点①令和2年6月分の児童扶養手当受給者②公的年金等を受給していることにより令和2年6月分の児童扶養手当の支給を受けていない③新型コロナの影響で収入が児童扶養手当を受給している方と同じ水準。いずれかに該当する方■支給時期：令和2年12月末予定

■支給額 一世帯あたり**5万円** 第2子以降1人につき**3万円**

■手続き：既に基本給付の支給を受けている方→**申請不要**

令和2年12月11日以降に基本給付の申請を行う方→前橋市子育て支援課へ
ひとり親世帯臨時特別
給付金コールセンター **0120-400-903**

国 GoTo イートキャンペーン

1冊 12,500円分の食事券を 10,000円で販売

■販売方法

セブンイレブン(11月6日～1月31日の間で販売) **050-5212-7844**
ぐんまGoToEatキャンペーン事務局

■利用期間：令和3年3月31日まで

※利用店舗や購入方法は県のホームページをご覧ください。

※店内でお食事される方は、感染状況を見てご判断をお願いします。

※令和2年12月15日現在の内容です。内容が変更する可能性もあります。

※詳しくは各窓口へ直接お問い合わせください。詳しく知りたい方は、つつみはじめのホームページにも特設コーナーを設けておりますのでご覧ください。

この4年全力で取り組み込んだ結果が、これから実を結びます！

Q.この4年間で取り組んできたことは？

A.無我夢中で走り抜け4年間の活動を見続けていただきましたが、特に子育て世代の代表として、出産・子育てにおいては、産後鬱の解消、中小企業や店舗等への支援においてIT化やテレワーク補助金について予算化に取組み、また長らく懸案であった旧エキータ(アクエル前橋)や中心市街地再開発など進みはじめました。旧中央小や旧日赤病院の跡地活用、本町五差路の改良においては、地域の方とともに、住民の要望書を提出するなど地域と共に取り組んでいます。



Q.コロナ禍で何が変わったの？

A.失業等からアパート等を失う恐れのある方へ住居の給付金制度がありますが、昨年は延べ件数が16件に対し、今年度7か月間の件数は前橋だけで330件と、大幅に増えました。外出が制限され、経済活動が停滞し、要望も経営不振や就業、感染不安といった生活に直結するものに変わりました。詐欺や窃盗などの軽犯罪が増え、人間関係の希薄化から、多くの市民が、不安の中にあります。必死に歯を食いしばって、懸命に生きている方々のために、一日も早く、明るい日々を取り戻すために全力で取り組んでいます。



Q.コロナ禍でどのような活動をしていたの？

A.議会では、感染症の支援要望として、特に事業者への5万円の支援金やひとり親世帯への支援事業の予算化に取り組みました。支援と一言で

言っても、国や県、その他多くの独自支援制度があることから、これをわかりやすく、とりまとめたオリジナルチラシを作成し、印刷などをすべて自費で3度にわたり、仲間と地元地域を中心に配布しました。また、医療従事者への支援の一環で、地元飲食店さんから日赤病院へお弁当配達のお手伝い、山本一太知事へ感染者やSNSでの誹謗中傷対策を要望、商店街の誘客のためイベントを開催など、経済再開に向けて、後援会活動を自粛して、今も全力で取り組んでいます。



Q.次の4年はどうなっていくの？

A.厳しい財政状況の中、基金(貯金)を取り崩しながらコロナ関連の市独自事業だけでも171億円を活用してきました。さらに来年度は、大幅な減収が予想されます。改めて無駄遣いを無くし、民間との共同を通して、モノだけでなく、新しい価値を創造し、雇用創出や定住人口と人の流れを増やすことで、これから教育や子育て、災害や犯罪対策など、急速に多様化する社会変化に対応していきます！



Q.この4年間を振り返って

A.この2月をもって任期満了となります。この先も身近な市議として、困ったことがあればご相談ください！10年経っても40代、20年経っても50代。私は、いずれは前橋を背負って立つつもりで、県都としての誇りをもって、本気で取り組んでいきます。若い発想力と行動力で、進み始めた前橋の成長を止めぬことのないよう、よろしくお願いいたします！

事務所移転のお知らせ

令和3年1月11日(月)から

2月10日まで

前橋市紅雲町2-16-12
人丸神社(巖島神社)

